

足立学園中学校

算数

大問は5～6題で、設問は20～25問です。①は整数・小数・分数の四則計算と、□の値を逆算で求める問題が中心になっています。②は短文の文章題で、旅人算や仕事算、図形の角度や面積などです。③～⑤は応用問題で、速さや水量、面積・体積などの変化の様子をとらえる力や、数の性質や周期性に着目して、ある規則を発見する力などを求めています。図形では、比例の考えを利用して解く力、点や図形を回転・移動させたときの様子をとらえる力、立体図形の体積や切断面を考える力を見る問題を出題しています。

国語

大問①が漢字の書き取りと読み、大問②が文学的文章（小説）、大問③が説明的文章（評論や随筆）の3題で構成されています。文学的文章の読解では、登場人物の人間関係、主な出来事による登場人物の気持ちの変化が把握できているかどうかを見ます。説明的文章では、筆者の主張を読み取れるかがポイントです。また、大問②と③では語彙問題を出題するので注意しましょう。

理科

大問は5題で、自然現象・実験・観察に関する問題を中心に、4分野からまんべんなく出題します。①文章の読み取りとそのなかの理科学的現象の理解、②理科学的用語の意味の理解、③グラフや表の読解、④実験に関する操作・装置・器具の理解、⑤観察した自然現象を頭の中でイメージし、それを文章や図で表現できる力などを重視します。

社会

3分野の広い範囲からまんべんなく、基礎的な問題を中心に3題出題するので、4年生以降の教科書をしっかり復習しておくこと。公民は時事問題をリード文にして出題する場合があります。歴史は幅広い時代・分野から出題します。教科書をよく読み、時代ごとにまとめておきましょう。また、地理を中心とする総合問題を出題しますので、都道府県ごとに各地の代表的な産業、歴史上の人物、文化などに関することを整理して覚えましょう。

その他関連情報

特別奨学生入試（午後入試）の問題は、一般入試（午前入試）より多少難しくなります。ただし、出題傾向は上記の内容とほぼ同じです。

海城中学校

算数

十二分な計算力を問います。幅広いテーマで思考力と処理能力を問います。

国語

まず、長文読解の力が必要となります。全文を通した文章の展開や心情の流れを把握することが大切です。出題は論理的文章と心情的文章の各1題が基本となります。記述式の問題も含まれるので、抜き出しができる力だけでなく、まとめて表現する力も養っておいてください。そのほか、ことばや国語の基本的知識を十分学習しておいてください。

理科

物理・化学・生物・地学の4分野から均等に出題するので、小学校で学ぶ知識をもとに、幅のある応用力を身につけてください。また、的確な論述力も必要となります。

社会

地理・歴史・公民の3分野を融合した論述問題が中心になっているので、地理や公民も、歴史との関係で学習しておくといでしょう。歴史は日本の歴史が中心ですが、日本と世界の関係も重視しています。地理・公民は時事的な視点も入れています。各分野の基本的な知識は覚えておく必要がありますが、やたらに細かい丸暗記は必要ありません。それよりも、できるだけ興味を持って考え、資料を読み取って問題点を的確に表現できるような力を育てておいてください。

学習院中等科

算数

大問数は例年と同様 6 題で、計算問題と基本的な文章問題、応用問題という構成で出題する予定です。ほとんどの文章問題には部分点があります（答えのみを書いても、ほとんど点になりません）。

国語

説明的文章と文学的文章の 2 系統から出題することが多くなっています。漢字の学習をしっかりやっておくとよいでしょう。記述式の問題の対策も大切です。

理科

環境分野も含め、全分野から出題します。実験・観察・観測の結果の解釈も重視します。最近、話題になった科学・技術分野の出来事からも出題します。

社会

地理的分野・歴史的分野・公民的分野をほぼ均等に出題し、基礎的な知識を問い、多角的に出題し社会的現象をとらえる力を見ます。

京華中学校

算数

中学校の数学の授業を理解できる基礎力があるかどうかを見るために、四則演算と基礎的な小問を出題します。大問は難問ではなく、設問文を読んで理解し、物事を明確にとらえて数式に直して計算できるかを試す問題を出題します。

国語

3000 字程度の長さの文学的文章と説明的文章を 1 題ずつ出題します。登場人物の心情把握と理由の説明については、選択肢や記述形式で出題し、傍線部のことばの言い換えの抜き出し問題や、具体的な説明を問う形式の問いもあります。また、小学 5・6 年生で習う漢字の読みと書きを独立して出題します。

理科

物理・化学・生物・地学の全分野について出題します。日常生活のなかでの興味や疑問を大切にしているかどうか、考察力があるかどうかを問う問題を分野ごとに出題します。また、総合問題として出題する場合があります。ニュースや新聞などで話題になった理科関係の話題をチェックしておくといよいでしょう。

社会

一つのテーマに沿った文章から、空欄補充や下線が引かれた語句について問う問題を出します。地理・歴史・公民分野それぞれ単独、あるいは融合した問題になります。図や写真を提示し、時事問題なども出題します。地名や人名について漢字で書けるものは、すべて漢字で解答できるようにしておいてください。

攻玉社中学校

【第1回・第2回】

算数

大問4題の出題を予定しています。①は基本的な計算問題（分数や小数の四則演算、空欄補充、一行問題など）で、②では場合の数、規則性を利用する文章題を出題します。③は文章題（時間と速さ、連続的に変化するものなど）について、④は図形（相似に関する比、連比・面積の計算、立体の表面積・体積など）について、それぞれ出題する予定です。大問の配点はほぼ均等で、それぞれ5問程度の小問に分かれています。

解答のみを採点し、途中式は部分点の対象としません。定規・コンパスは持ち込み可です。分数は「帯分数」「仮分数」とともに○にしていますが、約分忘れは減点します。比の形で答えるときは、「最も簡単な整数の比で」という指定をしています。また、小数点の桁の間違いについては、減点ではなく×とします。「cm」や「分」など、答えに単位が必要な問題については、解答欄に単位を記載してあります。

国語

漢字の読み書きの問題、慣用句などの幅広い日本語の知識を問う問題と文章題を出題しています。文章題は、文学的な内容のものと、論理的な内容のものとの2題を出題し、記述力も含めてさまざまな観点から国語力を問うようにしています。漢字に関しては「とめ・はね」まできちんと書いてください。日ごろから辞書などを使い、語彙を増やしておくとういでしょう。

理科

物理・化学・生物・地学の4分野から大問1題ずつ、計4題の出題です。第1回、第2回ともに、各分野の出題順は決まっていますが、なるべく取り組みやすい問題を第1問にしています。配点も均等に、各分野12点か13点で合計50点です。本校入学後、実験・観察を中心に授業を展開していくこともあり、実験や観察を題材にした問題が多くなっています。また、自然に対して興味・関心があることを望んでいるので、特に生物・地学の分野では、教科書の内容を超えた知識や時事的な知識を問うことがあります。物理分野では、基本的な問題とともに、やや応用的な思考力や計算力を見る問題も出題します。化学分野では、実験に関する問題を中心に、化学の学習を進めるうえでの基礎となる、物質の性質に関する問題を繰り返し出題しています。4分野ともに、過去の問題をできるだけ多く解き、対策することが大切です。

社会

大問は二つです。①は歴史分野と公民分野を中心とした問題です。②は地理分野を中心とした問題で、図や表を読み取る問題などがあります。また、②には説明させる問題があります。過去問対策を含め、地理・歴史・公民の3分野をしっかりと学習し、人物名や語句は漢字で正確に書けるようにしてください。日ごろから時事問題に興味を持って学習しておきましょう。

【特別選抜試験】

算数

答えのみを記入する「算数①」と、途中の解法も記述する「算数②」の、二つの試験を行います。「算数①」は、問題文が2～3行程度の小問題の形式です。計算、関数、数列、場合の数、図形、論理的思考など、算数に関するさまざまなジャンルから出題します。「算数②」は、長めの文章題が3題で、途中の考え方も記述する形式です。これまでの出題分野は、整数問題、やや複雑な数列、中学数学に通じる単元、立体の計算（計算量が多いもの）などです。

佼成学園中学校

算数

計算力と比・割合の扱い、図形に関する思考力を見ます。問題は計算問題（5問）、小問題（約6問）、文章題が3～4題出題されます。比・割合、図形のほかにも、近年では表やグラフの読み取りも多く出題されています。計算問題や小問題、文章題の最初のほうの問題をミスなく解くことが大切です。合格点に達していない受験生はこの部分ができていることが多いので、基本レベルから標準レベルの問題を中心に、繰り返し練習してください。解答用紙には途中の考え方を書くスペースもあり、部分点を与えることもあります。解き方をしっかり書いておくことも大切になります。

[特別奨学生入試問題の傾向と対策]

形式・内容・出題分野などは第1回から第3回までと同じですが、より高い計算力や論理的思考力が必要となる問題を出題しています。問題集の応用編などを利用して、さらなる応用力の充実を図るとよいでしょう。

国語

読解力や表現力を中心に、小学校で学習した事項の理解度を見ます。内容は、①漢字の読み書き（10点程度）、②文法、基本的な語彙力を確認する問題、③登場人物や筆者の心情、人間関係の把握を見る文学的文章（小説・随筆）、④主題・指示語・接続関係・言い換えの把握、文脈の理解を見る論理的文章（評論文・説明文）の大きく四つ（③④についての出題順は不同）です。過去の記述問題では、主語と述語の対応が取れていなかったり、抜き出し問題では、文章の写し間違いや、設問の条件に合わない解答があったりと、基本的なミスが見受けられました。また、文章が長い場合や難解な場合に記述が中途半端であったり、記号問題を空欄のままにしまったりという答案もありました。時間配分を考えて解答するようにしましょう。

[特別奨学生入試問題の傾向と対策]

論理的文章は、ほかの回に比べて抽象度が高くなっています（哲学に関する文章など）。文学的文章は、小学生男子である自分とは異なる境遇の人物（大人や女性など）の心情もとらえられるようにしましょう。主人公に感情移入しにくい場合も、表現から心情を想像するよう心がけてください。

過去問・問題集などで同じ傾向の問題を解いておくといよいでしょう。また、語句については、文法・慣用句・ことわざ・敬語・熟語などの知識を問います。確実に点が取れるようにしておいてください。文法については、例年、意味・用法の識別問題の正答率が低くなっています。過去問や問題集などでしっかりした実力をつけておけば、ほかの受験生に差をつけることができます。

理科

理科についての基本的な知識、科学的な思考能力が十分にあるかどうか、日常生活での理

科的な事象についての関心があるかを見ます。物理・化学・生物・地学の4分野から出題し、配点はほぼ均等です。①では、4分野からおよそ1問ずつ小問を出題します。②～⑤は、各分野からの大問が並びます。物理分野は、滑車、光、物体の運動、電気、磁石などに関する問題です。化学分野は、濃度、溶解度、ろ過、水溶液の性質などに関する問題です。生物分野は、教科書に登場する実験・観察に関する問題や、実験結果から少しだけ考える問題です。地学分野では、太陽の動き、地震、岩石、天気などに関する問題をよく出題しています。定番の問題があるので、過去問を見ておきましょう。また、その年度の理科的なニュースが題材となることがあります。なお、小学校の教科書に出てくる「二酸化炭素」など、基本的な用語の漢字間違いは不正解となるので、注意してください。

社会

基本的な知識・概念、図表などの資料を活用する能力がどの程度身についているかを見ます。地理・歴史・公民の3分野から出題します。問題は大問3題で構成され、地理20点、歴史20点、公民10点という配点になっています。内容は、基本的知識を問う問題、日常生活での社会的な出来事を題材とした問題、地図・グラフ・資料などを見て考える問題などです。歴史上の人物や地名など、基本的な用語は漢字で書けるようにしておきましょう（基本的な用語の漢字ミスは0点となります）。日本の川や山脈などの位置、歴史的な事件の起こった年代などは正確に覚えておいてください。基本的な統計資料も確認しておきましょう。日ごろから社会的に注目されていることについて関心を持ち、考える力をつけておくことが大切です。

駒場東邦中学校

算数

設問は計算が正確にできるか、理解力があるか、発想力はどうかなどの基準を設けて作っています。また、作問に当たっては、みずから解答を作り上げていけるような、型にはまらない題材を選んでいきます。それだけに、問題集などを繰り返し勉強することも大切ですが、日ごろから一つの題材をいろいろな角度から分析する習慣を身につけてほしいものです。また、答えを出すに当たって、どう考えたかをほかの人に伝えられるような表現力も身につけてください。

国語

長めの文章を読み、登場人物の置かれた状況や心情の推移を正確に読み取ったうえで、自分のことばで表現する力を測ります。限られた時間のなか、先入観にとらわれることなく、本文を根拠として行間を想像する力や、出題の意図を正確に理解し、自分の表現で記述する力が求められます。漢字の書き取り問題は「とめ・はね・はらい」はもちろん、字の形にまで注意して、正確にていねいに書いてください。

理科

豊かな知性と科学的教養を身につけるための、確かな基礎知識と思考力を試す問題を出題します。単に暗記するだけでなく、学習した知識を、より深く、目新しい現象などに応用できるようにしておくといよいでしょう。学校で学習した内容を問う問題でも、実験や観察に基づいた科学的な考えを持っていないと、簡単には答えを導けないこともあります。ふだんから身の回りの自然現象について興味を持ち、予想に基づいて、確かめる実験をしたり、ていねいな観察をしたりして、科学的に考える習慣を身につけておきましょう。また、それをことばで説明する練習も大切です。

社会

さまざまな社会問題を学習していくために必要な基礎知識、思考力、そして表現力がどれだけ身につけているかを問う問題を心がけています。問われる知識自体は、小学校の教科書に出てくる事柄、および小学生でも知っておくことが望ましい時事的事柄に限られます。そのうえで、知識として知っているかどうかにとどまらず、「なぜ?」「どうして?」をどれだけ考えられるか、考えたことを的確に表現できるかが問われます。日ごろの学習では、ただ単に断片的な知識の量を増やすのではなく、「なぜ?」「どうして?」をじっくり考えながら、地理・歴史・公民という枠にとらわれない視点も持って、理解を深め、表現するよう心がけてください。

芝中学校

算数

中学入試の標準的な問題から応用問題まで、いろいろな分野からまんべんなく出題しています。特に応用問題では、グラフを使った問題や数え上げる問題など、思考力が必要な問題を毎年出題しています。そういった問題は必ず小問に分かれているので、その最初の問題は解けるだけの力をつけておいてください。

また、後半の応用問題では、問題文を読み取る力が必要になります。ふだんからしっかり問題文を読んで解く練習をしましょう。

国語

作問傾向について、漢字問題は漢字をそのまま尋ねるのではなく、前後の文脈から類推する要素を絡めることで、単に漢字を覚えていただけでは答えられない形になっています。読解問題は説明文・物語文ともに四つの記述問題で構成されており、説明文では問1から問3については意味段落それぞれの内容を、問4では全体を問う内容になっています。問いに沿って部分を理解していき、その作業を通じて全体を理解できるよう配慮しています。同様に物語文でも問1から問3で物語理解の重要な段階を確認したうえで、問4で物語のクライマックスを説明しながら全体のテーマを確認するよう作問しています。また問4では読解の到達レベルで得点差がつくよう採点しています。より深い読解を考える訓練をすると高得点になるでしょう。

漢字問題では同音異義語を勘違いした解答が目立ちました。漢字は何となく覚えるのではなく、字の意味と一緒に理解するよう心がけるとよいと思います。また、日ごろからていねいに字を書く習慣も大切です。記述の問題では設問が何について聞いているのかを理解し、それを主語にして解答を書けるようになるとういでしょう。主語が決まれば適切な述語が決まり、文末形式と合わせて解答の背骨が通ります。残念ながら、この辺りの訓練ができておらず、どう書くかを考える前に思いついたことをそのまま書き始めたと思われる答案が目立ちました。また、物語文では主人公以外の登場人物の心情や台詞を考える問題などで、主語を取り違えた解答が目立ちました。これから本校では、難度設定を含め、皆さんの能力が得点差になるよう作問に工夫を凝らしていきます。少ない設問数ですので一問一問の解答を、何を主語にしてどう答えるべきかしっかり考え、ていねいに作成するよう訓練を積んできてください。

理科

芝太郎君の行動を追いながら、身近な現象や事象を問題とした第1問は、何げないところにある理科を感じ、考えてもらうのが狙いです。理科全般から出題し、最近の話題のテーマを入れることもあります。第2問以降は生物・化学・地学・物理分野からの出題です。ここでは基礎知識を問うとともに、計算力や想像力を必要とする問題を出題しました。普通の受験生が知らないと思われることは、すべて問題中で説明しているので心配はいりません。問題の解き方を何となく覚えるのではなく、解き方の背景にある意味を考える癖をつけておいてほしいです。重要な基礎知識はしっかり持ちつつ、それと読み取った情報

とを組み合わせる力をつけることを期待しています。

1 回、2 回ともに、問題を順番どおりに解いて時間配分がうまくできない受験生が毎年見受けられます。問題全体を見渡し、できる問題から解答する練習をしましょう。

社会

社会科では、地理・歴史・公民の各分野から偏りなく、基礎的～標準的な問題で構成することを念頭に置いて作問しています。ただし、単純に用語を暗記するだけの学習ではなく、それらを知識として整理できているか、基礎知識をもとに推論する力があるか、ということを試せるようなものにしました。高得点への鍵は、地理・歴史・公民の小問に対して、速く、正確に答え、論述にどれだけ時間を残せるかです。受験生のなかには、公民ではある程度の点数が取れているものの、地理や歴史の学習が間に合っていない人が見受けられます。まずは地理・歴史・公民のそれぞれの分野についての知識を身につけ、整理しておくことが必要です。なお、論述については、たとえば「筆者がこのように考える理由は」と問われているのに、自分の意見を述べてしまっただけでは正答になりません。問題とリード文をよく読み、指示に従って解答することが必要です。

芝浦工業大学附属中学校

算数

大問が4題で、うち1題は小問集合(12問)です。本校の数学科の授業では、答えを出すまでの過程を重視しており、中学入試でもその特色を生かして出題しています。小問を含むすべての問題の解答欄には、答えを書く欄以外に途中の過程を書く欄があり、最終的な答えが間違っている場合でも、過程が書かれていれば部分点がつくことがあります。

国語

文章読解問題は2題出題し、1題は小説などの文学的文章、もう1題は説明的文章です。説明的文章は、比較的平易な文章を出題するようにしています。ほかに韻文(詩・短歌・俳句など)、一般常識(ことわざ・熟語など)、漢字などを出題します。なお、2017年度から、文学的文章または韻文で100字程度の作文問題を、語句では日本語表現に関する問題を出題しています。

理科

物理・化学・生物・地学の4分野からまんべんなく出題しますが、比較的多いのは物理・化学分野からの出題です。問題は、選択肢から選ぶものや、数値を記入するものを中心ですが、実験・観察の操作・結果については、図表やグラフの読み取りに関して文章で説明する問題も出題します。本校の授業では、特に第1分野(物理・化学)で多くの実験を行っています。したがって、入試でも実験に関する問題を出題しています。

その他関連情報

これまで4教科入試でしたが、2017年度入試より3教科(国語・算数・理科)になりました。

城北中学校

算数

出題の主な狙いは次の点です。

- ①算数に対する基本的な考え方がきちんと身についているか。
- ②調べながら規則性などを見つけ出し、数え上げることができるか。
- ③図や図形を自分で描き表してみることを通して、考えることができるか。

出題の一部には多少難しめの問題もありますが、問題文をよく読んで、何をどう考えて答えればよいかを正しくつかむ力も大事です。また最近、計算力がやや落ちている傾向もあります。「一行計算問題」も含めて、速く正確に計算できる力をしっかり養ってください。

国語

2016年度までは、説明的文章の読解問題、文学的文章の読解問題、ことばに関する問題、漢字問題の大問4題構成でしたが、2017年度からは、文学的文章の読解問題と漢字問題の大問2題構成となりました。配点の比率は9:1です。読解問題では、これまで多く出題していた抜き出し型や選択肢型の問題を減らし、長文記述に加えて短文記述の問題も出題することとします。

理科

全分野にわたって偏りなく出題します。本校の理科教育では実験・実習を多く取り入れ、思考力を養っていくことを大切にしているので、入学試験でも、単なる暗記力や知識だけで答えられる問題のほかに、実験・観察に基づく問題、計算の必要な問題、記述問題、グラフの問題など、できるだけ考えて答えていくものにするよう努めています。第1回～第3回の各回の試験で、特に難度に差をつけることはしていませんが、各回の試験の持つ意味や性格を考慮して、第1回試験(1日)は標準的な問題を中心とし、第3回試験(4日)は、本校独自の傾向を持たせた問題(お絵かき問題等)も出題します。

社会

地理・歴史・公民の各分野から、偏りなく出題します。

- 地理は日本の地理を中心に、自然や産業、文化などを幅広く出題します。
 - 歴史は日本の歴史で、古代から現代まで偏りなく正確な知識を求めます。
 - 公民は、日本の政治や社会・経済の仕組みを問う問題が中心ですが、日ごろからニュースなどに意識的に接しているかどうかを見るため、時事問題も出します。
- なお、主な事柄や人物名などは漢字で書けるようにしてください。

巣鴨中学校

算数

50分・100点満点。2018年度までとは出題形式が一部変わります。大問数は5題から4題になり、「小問集合」を新設します。大問の配列は難度順ではありません。①は答えのみを書く「小問集合」です。②～④は文章題・平面図形・空間図形など、それぞれ2～3問の小問があり、これは難度順になっています。「式」と「答え」を書く欄があり、「式」も採点対象で部分点もあります。「答え」だけしか書かれていない場合には、正解でも減点する場合があります。字はていねいに書いてください。方程式を利用してもかまいませんが、何をXとしたかを明記してください。全設問数（小問数）は15問程度です。

国語

50分・100点満点。①は漢字10問、1問1点です。小学校の学習漢字から出題しますが、漢字そのものを知っていても、ことばを知らなくて書けないということもあります。②と③は論説・説明文と随筆文で、それぞれ2000～3000字です。二つを合わせても、6000字を超えることはありません。小説や詩・短歌などは出題していません。筋道を追って文章を読めるか、論理的に考えられるかを問います。随筆では心情を問う問題もあります。記述問題は、総字数で100～200字程度です。中間点、部分点もありますので、最後まで書き通すようにしてください。

理科

30分・50点満点。物理・化学・生物・地学の4分野から1題ずつ出題し、配点はそれぞれ12～14点です。それぞれのテーマを決めて出題します。記号・数字は読みやすく、はっきりと書いてください。漢字指定の場合は、当然漢字で書いてください。計算問題では四捨五入の位にも注意してください。生物・地学については、小学校レベルの知識をしっかり覚える必要があります。物理・化学は計算があり、論理的思考力を試す問題になっています。30分で40問前後の出題になりますので、知識問題の処理や計算が正確に速くできるようにしてください。

社会

30分・50点満点。地理20点、歴史20点、公民10点の配点です。3分野にまたがる総合問題は出しません。2017年度までは1問2点の25問構成でしたが、2018年度から3～5問増やしました。記号はていねいに書き、漢字指定の設問は必ず漢字で答えてください。設問の文章量や地図・グラフなどを増やし、短めの論述も出題します。しっかり勉強しておきましょう。

その他関連情報

各科目とも、Ⅰ～Ⅲ期はほぼ同じ形式・レベルで出題します。合否は4科目の合計点で決めます。合格の目安は得点率60%です。科目ごとの基準点はありません。

算数選抜

60分・100点満点。算数1科目の成績だけで合否を判定します。Ⅰ～Ⅲ期入試とほぼ同じ出題形式ですが、「解き方・考え方」を文章で答える問題（小問）が1題あるので注意してください。サンプル問題を本校ホームページで紹介しています。参考にしてください。

成城中学校

算数

冒頭に計算問題が 2 題あります。文章題は幅広い分野から出題します。問題数は 10 題前後で、解答数は 20～25 程度です。解答用紙には解答のみを記入する方式なので（途中式は見ません）、計算間違いのないよう十分な注意が必要です。

国語

大問を 3 題出題します。1 題は漢字の読み書きが 10 問（配点 20 点）で、2 題は長文読解です。長文読解の設問はていねいな読み取りが必要です。記述問題もあります。文学的文章（小説など）、論理的文章（評論など）からの出題です。

理科

大問を 3 題出題します。各大問の配点は、ほぼ 20 点です。基本的な知識を確認しておきましょう。また、実験データの表やグラフから規則性を見いだすことも大切です。計算問題は答えのみが採点の対象となりますので、ミスのないよう十分に注意しましょう。

社会

地理・歴史・公民の各分野から均等に出題します。人々の暮らしを成り立たせているさまざまな背景や条件について、どのくらい関心を持って学んできたかを問いたいと考えています。例年、地形図に関する問題や時事問題を出题しています。また、文章による記述問題も出題します。

世田谷学園中学校

算数

計算力とスピードと正確さが要求されます。定番の問題を多く出題します。一つひとつの考え方を身につけ、定着させることが大切です。記述式の問題は過程もていねいに見るの
で、しっかりした答案を作ることを心がけてください。

国語

文学的文章、論理的文章から大問1題を出題します。漢字は本文中から出題します。記述
は途中点を考慮しますが、安易な抜き出しは得点に結びつきません。漢字や語句の意味、
接続詞や語句の空欄補充などで点数を落とさないようにしましょう。本文をじっくり読む
ことが大切です。

理科

覚えるべき内容はしっかりと把握し、計算力・観察力を養い、考える習慣をつけることが
大切です。実験に関する問題、物理・化学の計算には注意してください。基本的な用語は
漢字で書けるようにすることも重要です。

社会

地理的分野・歴史的分野・公民的分野の大問3題からの出題です。ただし、公民的分野に
ついては、地理的分野・歴史的分野を総合的に出題しています。重要語句は単なる暗記で
はなく、内容を十分に理解して自分のことばで説明できるようにしましょう。日本の自然
や歴史、時事的な事象についての理解を問う問題もよく出します。

算数（算数特選）

ホームページ上にサンプル問題が発表されています。ご参照ください。

高輪中学校

算数

「A・B・C 日程」は大問が 5 題、小問が 17～18 問前後で、基本的には答えのみを記入します。①は基本的な計算問題、②は標準的な一行問題で、一部に途中式を書かせる記述形式の問題も出題します。③は速さ、規則性、場合の数など、④は平面図形、⑤は立体図形の標準問題から応用問題です。

国語

大問は 3 題で、①は漢字の知識とことばの問題、②は 2000～2500 字前後の随筆や説明文などの論理的文章、③は 3000 字前後の小説からの出題です。②と③は読解問題中心で、筆者の考え方や、登場人物の心情をつかむことが大切です。

理科

大問は物理・化学・生物・地学の 4 分野から各 1 題出題します。基本的な事柄を問う問題から応用力を試す問題まで幅広く出題します。各分野とも配点は均等で、それぞれ 15 点前後です。選択肢から答える問題もありますが、計算問題、説明問題、作図問題なども出題し、定規が必要な場合もあります。

社会

大問は 3 題で、配点は各 20 点前後です。①は地理的総合問題、②は歴史的総合問題、③は公民的・時事的総合問題です。日常生活のなかで社会の動きに関心を持つことが大切です。解答に当たっては、出題者の意図を考えて答えるようにしてください。ほとんどの問題に字数や漢字などの指定があります。人名・地名、事柄、事件の名前などは、漢字で正しく書けるようにしてください。

算数午後入試

2 月 2 日の「算数午後入試」は標準問題から応用問題までの大問 4 題で、①は規則性または割合など、②は速さ、③は平面図形、④は立体図形です。ここでは答えのみではなく、途中経過や記述・作図なども採点の対象となります。方程式の使用も認めています。

東京都市大学付属中学校

算数

〈出題方針〉第1回から第4回まで①は小問集合、②～⑤は大問です。①の小問集合は、計算、割合、特殊算、図形など幅広い分野から基礎的な一行問題を出題します。②～⑤の大問は、文章題(数量)2題、図形2題の予定です。配点はすべて1問につき5～6点です。出題傾向は例年どおりですので、過去問にしっかり取り組んでください。なお、問題の一部に記述解答を取り入れています(図に補助線を加えたり、考え方を書いたりする形式で、途中式は求めません)。

〈受験生へのアドバイス〉難問・奇問は出題しません。標準的な問題を確実に解けるように心がけてください。数量分野では、線分図、面積図、速さに関する問題、場合の数の問題、図形分野では、特に比を用いた面積・体積の問題についてよく学習しておきましょう。計算練習は、市販の問題集でよいので、速く正確にできるように毎日欠かさずやりましょう。

〈採点基準〉帯分数、仮分数のどちらの答え方も可ですが、約分していない分数や、最も簡単な整数で表していない比、単位が重複しているものは1点減点します。

国語

〈出題方針〉基礎的な力(読解力・知識)を問うことを中心として問題を作成しています。文章問題において特に意識していることは、多様な文章に対応できる力です。説明文および物語文では筋道立てて正確に読み取る力を、詩では比喩や省略などの表現を手がかりとした読解力を測ります。また、知識問題においては、ことわざ・慣用句や漢字の成り立ちなどの知識を問うようにしています。

〈受験生へのアドバイス〉まず、苦手なジャンルをつくらないように、さまざまな文章を読むことを心がけてください。また、知識問題に関しては、やみくもに暗記をするのではなく、資料集を活用したり、辞書の例文を読んだりして、工夫して覚えるようにしてください。問いに対して的確に答えるために、設問をよく読むことも大切です。過去問を解き、出題パターンや問いの表現などに慣れておくことをお勧めします。

〈採点基準〉漢字の書き取りはもちろん、記述問題でも漢字・ひらがなを問わず、字の体裁がおかしいもの、画数が正しくないものなどは減点対象としています。記述問題については、原則として、指定した字数の8割は書くようにしてください。字数の過不足、誤字、キーワードの欠落などによって、減点とすることがあります。

理科

〈出題方針〉物理・化学・生物・地学の4分野からバランス良く出題します。作問に当たっては、「理科全般の基礎的な知識を持っていること」「実験データやグラフが読み取れること」「文章から必要事項が読み取れること」「数値計算ができること」の4点を重視します。

〈受験生へのアドバイス〉4分野について偏りのない学習を行い、基本事項を確実にして、現象の説明ができるようにしてください。また、用語は正確に覚えておくことが必要です。

練習問題や過去の入試問題を、時間配分に気をつけて解いてください。問題の前文（説明文）や会話文がヒントになることもあるので、注意深く読みましょう。

〈採点基準〉説明問題で部分点を与える場合があります。記述問題では、漢字指定の場合を除き、ひらがなで書いても減点はしません。

社会

〈出題方針〉地理・歴史・公民の 3 分野からバランス良く出題します。地理においては、雨温図、地形図、統計グラフなどを正確に読み取ることができるかどうか、歴史では、時代ごとの政治・経済・文化の違いを理解しているかどうかを見ます。公民では、憲法や国内政治の仕組みを理解しているかどうか、環境問題や国際関係などを含めた時事問題に興味・関心があるかどうか、といったことを見ます。なお、3 分野に共通して、人名・地名・事件名など、小学校で学習した社会科の基礎用語については正確に書くことが大切です。漢字指定の場合は、問題文中に指示してあります。

〈受験生へのアドバイス〉3 分野にわたって偏りのない学習を行い、基礎用語を正確に理解しておいてください。また、日ごろから新聞やテレビの報道番組をチェックし、時事問題にも関心を持つよう心がけてください。練習問題や過去の入試問題を解いて、理解を深めておくことも大切です。

〈採点基準〉指定の書き方でなければすべて不正解となります。特に漢字指定の問題は、誤字・ひらがな・カタカナはすべて不正解で、△はありません。

桐朋中学校

算数

中学入学後の基礎となる計算力や図形についての知識を問う問題から、算数の総合的な力を見るための応用問題まで、特定の分野に偏らないように出題しています。問題はほぼ難度順に並び、例年、記述問題を出題しています。記述はどのように考えて答えを導いたかを確認するものです。式だけでなく、図や表などを利用してよく、途中の考え方が採点者に伝わるように書き表すことが大切です。自分の頭で考え、しっかり手を動かして問題の構造を理解したり、規則性を見つけたりすることになる出題を心がけています。

国語

受験生に読ませたい文章から出題することを第一に考えています。これから中学生になろうとする児童にとって、物事について深く考えるきっかけや、新たな視点を得る機会となつてほしいからです。設問については、本文の内容を自分のことばでわかりやすく伝える力を見られるように作成を心がけています。

理科

物理・化学・生物・地学の4分野から偏りなく出題しています。それぞれの分野でテーマを持たせた問題にし、基礎的な知識・理解を問う問題から発展的な問題まで、バランス良くなるように配慮し、平均点は6～7割になるようにしています。具体的には、日常生活につながる題材を使い、身近な生活のなかにある理科を意識した問題作りをしています。また、こつこつと勉強してきた受験生が点数を取れるように、奇をてらった問題は出題しません。

社会

歴史・地理・公民の分野ごとにテーマを考え、「知的関心」を持ってもらえるような出題をしています。基本的な事柄を問い、受験生が達成感を得られるように、平均点7割を想定した問題作りをしています。また、歴史資料や地図帳を使っての学習、統計表・グラフを読み取ってわかったことを表現する力があるか、時事問題への関心なども見られるような出題を心がけています。

獨協中学校

算数

基礎的な計算力、文章問題を正しくとらえる力、図形を見て考える力などを試します。問題集を利用して学習するときには、図を描いたりしながら、さまざまな解き方を自分で考えるように心がけてください。実際の入試問題には、解答欄のほかに途中の計算を書くスペースを用意しています。そこに書いてある解答を導くための式や考え方を評価し、部分点を与えることがあります。ただし、必要のない式や間違った解き方はきれいに消しておくことも忘れずに。

国語

漢字の書き取りは、画数を意識しながらていねいに書いてください。乱雑に書かれたものは正解になりません。長文問題では、細かな知識よりも読解力を重視します。物語文の場合は、さまざまな情景や登場人物の心情を正確につかむこと、説明文の場合は、文章全体の筋道を読み取ることが大切ですから、情景や心情を思い浮かべながら読んだり、論理的に読んだりする訓練を日ごろからしておきましょう。設問に答えるときは、傍線部付近だけを読むのではなく、文章全体から考える習慣を身につけておきましょう。また、必要に応じて「こと。」「から。」を付けることを忘れないでください。文末表現が不適切な解答は減点の対象です。

理科

小学生の皆さんが日常の生活のなかで経験したり、関心を持ったりするであろう題材を取り上げて、そのなかに含まれる科学的なものの考え方や知識を尋ねる問題を中心に出题します。一見、見慣れない問題のように思えても、問題文をよく読み、問題文に導かれながら考えを進めていくと、答えが出てくるようになっていきますので、じっくりと考えてください。高度な知識よりも、結論を導く過程（正しい作業や考え方）を重視して問います。基礎的な計算力（理科では小数で答えを求めます）も問いますので、ふだんから練習しておくといでしょう。

社会

基本的には教科書や参考書の内容から出题します。地図の見方や、教科書などに出てくる統計資料や、歴史上有名な絵・写真などを使った問題が出题されるので、日ごろから教科書の図や表はよく見ておきましょう。漢字指定の問題では、ひらがなで書いた場合は正解になりません。基本的な地名・人名・用語は漢字で書けるようにしておいてください。記述問題では部分点もありますから、最後まであきらめずに書いてください。地理・歴史・公民・時事の4分野すべてからバランス良く出题するので、日ごろからニュースに関心を持っておきましょう。

日本大学豊山中学校

算数

小学校で学習する内容から、計算・図形・整数・比などの基本的な問題を中心に出題します。計算力・発想力・論理的思考力を問う応用問題も出題しています。

国語

説明的文章および小説から、選択問題と記述問題をバランス良く出題しています。漢字の読み書き、ことばの意味、心情理解、内容把握など、基礎的な問いを中心としています。

理科

「生物と環境」「物質と変化」「運動とエネルギー」「地球と宇宙」の各分野からまんべんなく出題しています。実験・観察から思考させる問題や、理科に関する時事的な出来事を問う問題もあります。

社会

地理的分野では日本について、地域の特色や生活とのかかわりを学習しておいてください。資料や地図から読み取る力も試します。歴史的分野では重要な用語と人物を学習し、それらを「流れ」で理解しましょう。公民的分野では時事的な内容を中心に、政治や国際関係について学習しておくといでしょう。

本郷中学校

算数

例年どおり、大問は5～6題です。計算問題が2問、一行問題が4～7問で、あとは文章題などです。合計15問前後出題します。文章題のなかには、グラフを読み取る力を見る問題や、図形（平面・空間）の問題が含まれており、なるべく取り組みやすい問題を先に配置するようにしています。中学校での数学の授業についていけるよう、速く正確に計算できるか、きちんと考えられるかを問いたいと考えています。

国語

論説文や説明文などの論理的文章と、物語文や随想文などの文学的文章からの大問を1題ずつと、漢字の大問の計3題を出題します。読解問題をはじめとして、語句の意味や空所補充など、さまざまな形式で出題する予定です。記述問題では、文末処理や誤字による減点があります。正確に書かれていない文字は、得点にならないこともあるので、ていねいな字で書くように心がけてください。

理科

物理・化学・生物・地学の4分野から出題します。4分野の配点はほぼ均等で、出題傾向は大きく変わっていません。基本的な知識や計算力などの基礎力を身につけているか、その基礎力を応用することができるかを問う問題です。表やグラフを読み取る力や、実験に対する考察力を問う問題もあります。身近な生活のなかにある科学に興味を持って勉強に取り組んでください。最近話題となった自然科学に関するニュースなども勉強しておくとういと思います。

社会

地理・歴史・公民の3分野から出題します。配点はそれぞれ25点ずつです。地理分野では、「地図・統計・グラフなどの資料」が理解できているか、それぞれの地域の特色を理解しているかを問います。また、地形図の読図の問題は必ず出題します。歴史分野では、丸暗記ではなく、歴史の流れをしっかりと理解しているか、また、基本的な知識を正確に持っているかを問います。公民分野では、基本的な知識に加えて、新聞やニュースなどに興味を持って勉強に取り組んでいるかなどを問います。憲法を読み、関連する基本的な知識を理解しておいてください。漢字の指定もあります。正確に書かれていない文字は得点にならない場合があるので、ていねいな字で書くように心がけてください。

明治大学付属中野中学校

算数

50 分の実施で、100 点満点です。計算から文章題、平面・立体図形など、小学校で学習する全範囲から出題します。例年の問題構成としては、最初に計算・小問が 8～10 問程度あり、その後、文章題、グラフの読み取り、平面・空間図形などの問題が 8～10 問程度続きます。配点はほぼ均等です。本校では難問・奇問といわれるような内容は出題しないので、確実に正解を導けそうな問題から取り組み、速く正確に計算ができるように、計算練習を着実に行っておいてください。

国語

50 分の実施で、100 点満点です。前年度から大きな変更点はありません。問題構成としては、例年、長文読解問題が 60～70%、小問が 30～40%です。記述式問題も多く、誤字・脱字がある場合や、答え方が不正確な場合（理由を問われているのに「～こと。」と答えるなど）は、減点の対象になります。また例年、指示語、接続詞、主語、ことばの係り受けの問題などを出題します。小問については、小学校の学習漢字の範囲内から、漢字の読み書きを 20 点前後出題します。字はていねいに書くことを心がけてください。そのほか、四字熟語、慣用句、ことわざ、語の意味、ことばの決まり（文法）などからも出題します。

理科

30 分の実施で、50 点満点です。物理・化学・生物・地学の 4 分野から出題します。解答形式は「選択肢から選ぶ」「語句を解答する」「計算により求めた数値を解答する」が多く、10～20 字の記述式問題を出題する場合があります。問題の主な内容は、知識を問うもの、法則を使って論理的な思考力を問うもの、実験・観察に関するものなどです。物理は法則を利用した計算が多いので、問題演習にたくさん励んでください。化学は反応の量的な計算と物質に関する知識を増やす学習に励むこと。生物は植物と動物に関する内容ですが、学ぶべき量が多いので、学習量に比例して必ず力がつくはずで、地学は天体・気象・地層に関する内容ですが、覚えるものと理論的に思考するものがあるので、地道な学習を続けてください。

社会

30 分の実施で、50 点満点です。地理・歴史・公民の 3 分野から出題します。解答形式は「選択肢から選ぶ」「語句を解答する」「短い文章で解答する」などがあり、1 問当たりの配点は 1～3 点です。地理については、日本地理を中心に、基礎レベルの世界地理を出題することもあります。グラフを読み取る問題もよく出題しています。地名については、地図帳で位置を確認する習慣をつけておいてください。歴史については、事柄を単独で覚えるのではなく、原因から結果までの全体の流れを理解するようにしましょう。年表を活用した学習が効果的です。文章で解答する問題は、歴史で出題することが多くなっています。公民については、日本の政治を中心に、基礎レベル程度です。学習内容はそれほど多くないので、漏れのないようにしましょう。また、

過去1年間の時事を地理・歴史・公民の3分野に絡めて出題します。そのため、日ごろから新聞には目を通し、用語・地名・人名を漢字で正しく解答できるようにしておきましょう。

明法中学校

算数

試験時間は第1回午前のみ50分で、第1回午後と第2回はすべて40分です。配点はすべて100点です。大問は5題あり、計算問題、基礎知識を見る小題、思考力を見る問題を出題します。また、第3回の基礎算数は国語と合わせて50分で、基礎算数の配点は20分です。計算問題、基礎知識を見る小題（過去問の大問1、2に準じた問題）を出題します。過去問を中心に学習し、特に例年出題される分野は、どんな形式で出題されても大丈夫なように、問題集などでしっかり解法を身につけておくことが大切です。また、計算をていねいに行い、ケアレスミスによる失点をしないよう注意してください。

国語

試験時間は第1回午前が50分で、第1回午後と第2回はすべて40分です。配点は3回とも100点です。大問が2題で、1題は論理的な文章、もう1題は文学的な文章が題材となります。基礎的な問題として、漢字の書き取りと読み、語句の意味や適切な接続語の選択などを出題します。この分野では確実に得点できるようにしましょう。応用的な問題として、内容把握（選択式・記述式）を出します。作文は第1回午前と第3回で出題します。第1回午前の配点は15点程度で、字数は150字程度、第3回の配点は20点で字数は250字程度なので、8割以上は書いてください。第3回は作文のみの出題になります。日ごろから自分の考えや気持ちを相手に伝えられるよう心がけて文章を書きましょう。

理科

入試科目に理科のある第1回午前・第2回とも、試験時間は30分で、60点満点です。物理・化学・生物・地学の各分野から偏りなく出題します。内容は理科についての基礎的な知識問題、実験や観察から考えていく問題、身の回りの理科学的な事柄についての関心を見る問題です。基礎的なものが多いので、まずは基本問題を繰り返し学習して、基礎的な知識を確かなものにしましょう。

社会

地理・歴史・公民の3分野から出題します。地理分野では必ず地形図に関する問題を出題し、公民分野では時事問題もあります。試験時間は第1回午前、第2回とも30分で、60点満点です。各分野ほぼ均等の配点です。過去問を研究して傾向をつかみ、よく出題される基礎的な知識を固めておきましょう。

適性検査型入試

第1回午前において行います。都立立川国際中等教育学校をはじめ、公立中高一貫校を受検者向けの問題を作成します。適性Ⅰ型・Ⅱ型を実施します（Ⅲ型は実施しません）。

自分アピール入試

第3回入試において行います。アピールする内容は自由。通常授業で使う教室で、発表と質疑応答で合わせて10～15分程度になります。配点は60分です。選考は作文・基礎算数（各20点満点）との合計点で行います。評価は以下の四つの観点で行います。①継続的な努力やユニークな取り組みであるか。②取り組むのに仲間との協力はできていたか。③わかりやすく人を引きつける説明であるか。④面接者の質問に適切に答えられるか。落ち着いて、わかりやすい印象に残る発表ができるように心がけてください。そのためには事前の準備をしっかり行い、図など資料や道具を駆使することも考えてみてください。

立教池袋中学校

算数

基本的な問題から応用問題まで幅広く出題しています。設問では的確で素早い計算力はもちろんのこと、文章を読み解き、多くの条件を整理し、筋道をしっかりと立てて考えることを要求している問題もあります。「この手順でやっていけば答えにたどり着く」ではなく、日ごろからどんな簡単なことにも「なぜだろう？」と疑問を持ち、「もっと良い方法は？」「もっと良い考えは？」という姿勢で問題に取り組むようにしてください。

国語

文章の読解力と、ことばの知識または詩や俳句の読みを問われる問題を出題します。文章はそれほど長くないものを2～3題出します。設問だけ見て答えるのではなく、文章全体をしっかりと読み、理解したうえで答えることが大切なので、ある程度の読む速さ、文をとらえる速さも必要になってきます。また、設問の意図を考えて答える力も問います。詩や俳句などを出題する場合は本校の生徒の作品を主に使います。作品中に問題を解くためのヒントが見えていることが多いため、これも作品をよく「読む」ことが必要となります。

理科

理科の4分野（物理・化学・生物・地学）すべてにわたって、できるだけ偏りのないように出題しています。実験・観察の結果から推定できる事柄や、その結果が意味するものは何かを問うような出題を考えています。そのためには、イメージができるよう、実際の実験・観察に親しんでおくことが重要です。また、結果の多くは、グラフによって表されます。グラフの作成の仕方を含めて、グラフの読み取りの練習も行って、理科の思考能力を高めてください。なお、計算問題もできるだけ入れるつもりです。理科の計算は、単位を伴うことが多いので、計算の意味の理解を念頭に置いて、計算能力を養ってください。

社会

本校の社会科は、生徒が主体的に社会を作り上げる「市民」としての自覚を持つことを教育目標の一つとしています。したがって、基本的な知識を習得するのみにとどまらず、社会的な事象を資料などの分析を通じて論理的に説明し、さまざまな視点から解釈し、意見を持つ活動を重視します。入試問題は地理・歴史・総合の3分野で構成されますが、こうした力を精査するために、基本的な知識・語句を漢字で答えるほかに、資料や図表を読み解き説明することも求めます。分野によっては、自分の意見を述べることが求められる場合もあります。